校友ネットワーク
元気をつなぐ、変化をつなぐ

教職員、同窓生の活躍を自慢しあいませんか。

創刊特別号編集スタッフの一人は、同窓生・教職員が発表する著作に注目し、コレクションしています。仙台の書店事情と懐具合からの制約は否めませんが、最近2～3年の間に新書や文庫など手軽な形で読むことができた作品を中心に並べてみました。教育学研究科・加藤守通教授訳の『ジョルダーノ・ブルーノ著作集』は簡単には手に入れにくい高価な本ですが、そんな本も読んだことを自慢したくて並べました。

また、付け加えたいトピックスが2つあります。2009年はチャールズ・ダーウィンの生誕200年、『種の起源』刊行150年なのだそうですが、編集スタッフが、東北大学校友の出版物の中に関係するものを見つけました。永野為武博士（理学部卒、大学院修了、助手を経て1941-74年東北大学在籍）訳の『チャールズ・ダーウィン著作集』3b巻、4巻です。絶版なのが残念ですが、北青葉山分館に所蔵されています。それと、新明正道博士（1926-61年東北大学在籍）編著『社会学辞典』の復刻です。1944年に発行され、社会学の分野で国内最古、かつ最も体系的に構成された社会学辞典と評されるものです。2009年1月、時潮社からの出版となっています。

「私なら違う本を推奨するなぁ」「もっとおもしろい本が出ているよ」といった情報やご意見をお寄せください。一緒に、自慢しあっていきましょう。

遠藤章博士（特任教授）、ラスカー賞受賞

2008年9月、遠藤章博士（農学部卒。特任教授）が、米国の「ラスカー賞」で、日本人としては初の臨床医学研究賞を受賞しました。血中コレステロールを下げるスタチンの発見が評価されての受賞ですが、その研究内容については『新薬スタチンの発見』（2006年9月、岩波科学ライブラリー123）で知ることができます。「プロローグ」に、

この本は、わたしがコレステロール代謝とコレステロール低下剤の開発に興味を抱いた一九六〇年代半ばから現在までの四〇年間に及ぶスタチン発見の経緯をわかりやすく述べたものである。なお、スタチン製剤の開発の詳細については、拙著『自然からの贈りもの―史上最大の新薬誕生』（メディカルレビュー社、二〇〇六年）を参照してほしい。

と述べられています。

小田和正さん、2008年度「芸術選奨」文部科学大臣賞受賞

2009年3月に発表された文化庁「第59回芸術選奨」において、小田和正さん（工学部卒業）が、大衆芸能部門の文部科学大臣賞を受賞しました。2008年、全国29都市で52回にわたって繰り広げた「KAZUMASA TOUR 2008　今日もどこかで」と、追加公演として実施された東京・名古屋・大阪でのドーム公演を含め、歌手・作詞・作曲家としての存在を強く印象づけたことなどが理由とされており、落語の桂文珍さんと並ぶ受賞となりました。

小田さんは、2007年8月27日の東北大学創立100周年記念式典において、芸術・文化部門の「百周年記念文化貢献賞」を受賞した卒業生です。記念式典前日、片平キャンパスの野外特設会場で開かれた東北大学100周年記念祝賀会（野外パーティ）において、坂本サトルさん（経済学部卒業）のステージに飛び入り出演した姿が改めて、思い出されます。

産学官連携へ。堀切川一男教授の発明いろいろ

「実学尊重」の伝統は、いま、産学官連携による成果となって現われ、各種表彰を受けています。

たとえば堀切川一男教授（工学部・工学研究科）は、仙台市地域連携フェローとして、〝仙台堀切川モデル〟とも呼ばれる（『産学連携ジャーナル』2007・10記載）地域中小企業と連携した商品開発を推進。科学技術政策担当大臣賞を受賞した米ぬかを原料とする「RBセラミックス」の開発と応用、滑りにくい「サンダル」の開発、学都仙台の土産品ともなる「秀才文具パック」の開発など、話題の製品を次々に生み出しています。

また2008年には、坪内和夫教授（電気通信研究所）の「次世代モバイルインターネット端末」が文部科学大臣賞、高橋弘教授（環境科学研究科）の「高含水比泥土の再資源化技術」が国土交通大臣賞を受賞しています。

堀切川一男教授

RBセラミックを用いたすべりにくい「サンダル」

秀才文具パック（左は9品フルセット、右は6品入門編）

新型インフルエンザ問題で、田代眞人博士、押谷仁教授

2009年4月、メキシコから米欧に広がった新型インフルエンザ問題に関して、日本での水際対策などに関して感染症研究者の発言がありました。その中に2人の東北大学卒業生が目立っていたことに気がついたのではないでしょうか。

国立感染症研究所に所属しながら、世界保健機構（WHO）インフルエンザウィルス研究センター長として新型インフルエンザ対策に携わる田代眞人博士と、東北大学医学系研究科でウィルス感染症の疫学・感染症対策を研究する押谷仁教授です。いずれも医学部卒業であり、田代博士は『史上最強のウィルス12の警告　新型インフルエンザの脅威』（2008年10月監修　文春文庫）

『新型インフルエンザの企業対策』（2009年4月日本経済新聞社）などの著作活動も知られています。

押谷仁教授